

「気象器材整備員のお仕事」

【第11回】気象器材整備員のお仕事

航空気象群ホームページのコラム～「気象の杜」～をご覧くださいありがとうございます。

私は気象器材の整備員をしている2020年春入隊の女性自衛官です。今回は「気象のお仕事ってこんな事もやっているの!？」と皆様に思っていたいただけるような情報をお届けしたいと思います。

まず、整備員といえば何を想像しますか?航空機整備?車両整備?でしょうか。私が整備している物それは、気象観測員が気象観測をするために使う「気象器材」です。

「気象器材ってなに?」と思う方もいるかもしれません。大丈夫です!私も入隊して初めて知りました。気象器材とはその名の通り、雨雲や雷雲、風の強さと向き、視程、気温、湿度を測定する器材です。その測定値を活用し、気象観測員が気象観測、気象幹部(予報官)が気象予報を行います。航空機が安全に飛行するためには天気の良い悪いが影響するため、実際にパイロットは気象隊の気象幹部から天気の説明を受けてフライトしています。では、気象器材が不具合を起こし測定できなくなるとどうなるのでしょうか?航空機の運航に支障をきたし、場合によっては、離着陸が出来なくなります。そのため、私たち気象器材整備員は、気象幹部と気象観測員がいつでもベストな予報・観測ができる様に気象器材を維持、整備する事を仕事にしています。

私は民間企業で約12年勤めた後、入隊しました。「前職でも同じ関係の仕事をしていたの?」とよく聴かれますが、私の前職はコールセンターのオペレーターでした。全く違う職種にジョブチェンジです。でもご安心ください。自衛隊は教育が充実しており、私も入隊して数か月間、自衛隊の学校でみっちり気象器材整備員になるための勉強をしました。自衛隊の学校に入校した当初は「整備員だからドライバーやスパナなど工具を使った仕事かな～」と考えていました。しかし出てきたのは、周波数やマイクロ波、電子回路などの科学のお勉強ばかり。今まで聞いた事のない専門的な事を多く学びました。航空気象群が保有している装備品の1つに気象観測レーダー装置という物があり、そのレーダー装置ひとつにしても、動く仕組みや構成について膨大な量を覚える必要があったため、高校を卒業して十数年ぶりに勉強漬けの日々となりました。ですが、教官方のおかげで無事学校を卒業でき、部隊配属後の今では先輩方のご指導を受けながら整備員として日々任務を全うしています。



気象観測レーダー装置

(航空支援集団、航空気象群のページより引用)

どこの世界でも同じだと思いますが、場数を踏んだ経験者は最強だと考えます。今の部隊に着隊して3年目になりますが、器材の些細な変化を読み取り適切な対応をする先輩方の姿を何度も見てそう感じました。また、気象器材の部品は手のひらサイズのものから数百kgと、一人で持ち運ぶ事が困難なものもあり、整備は決して一人ではできない仕事だとも感じています。私は天気を観測しパイロットに予報を伝える事はできませんが、これからも縁の下の力持ちとして立派な整備員を目指し、日々成長していく所存です。また私のいる部隊では女性自衛官が多く在籍しており、日ごろから積極的に自主訓練に励み、どんな任務にも対応できるようにお互い高め合っています。仕事内容も幅広く、自分のやる気次第で成長できるチャンスは沢山あると感じています。

まだまだ伝えたい事は沢山ありますが、今回のコラムで少しでも気象器材整備員の仕事を知っていただければ幸いです！最後までご覧いただき、ありがとうございました！



(多くの女性隊員も気象器材整備員として活躍中！)